

令和3年度第1回社会教育委員会議まとめ（一部抜粋）

いただいたご意見の主な内容をまとめました

（委員名は名簿順）

第2回会議以降は、市の取組のご報告及びそれに対するご意見を頂戴する他、テーマに沿った事例紹介や講義を踏まえたグループワーク等を予定しています。

この会議まとめと自己紹介カードを共有することで、より良い会議にしていきたいと思いますのでご一読下さい。なお、ご意見・ご質問等がございましたら事務局までお願いいたします。

	ア 提言書全般について	委員名
1	基本的に同意するが、コロナ禍で地域連携や体験活動も従来とはイメージが変化していることを踏まえ、実効性のあるものにする必要がある。	長島委員（学校教育関係者）
2	それぞれができることから無理なく進められるとよい。	今井委員（学校教育関係者）
3	地域連携、コミュニティスクール、アクティブラーニング、GIGAスクール、様々な取り組みが現在行われています。皆さんと一緒に「子どもたちの生きる力を育む体験のためにできること」を議論していければ。	荒井委員（社会教育関係者）
4	地域の大人がつながり、子どもたちと一緒に展開することは意義がある。失敗を恐れず企画段階から子どもたちを巻き込めないか。 子どもたちの意見を取り入れた「防災キャンプ」「避難所運営シミュレーションゲーム」「避難所での感染対策」などが取り組みやすいのではないか。	石垣委員（社会教育関係者）
5	提言によって多くの大人に子どもたちの体験活動に関心をもってもらいたい。	岩崎委員（社会教育関係者）
6	地域連携ルームを拠点に新しい活動の創出、地域の人と団体をつなぐ場など、多様な効果が期待できる。	高橋委員（社会教育関係者）
7	良くまとまっている。学校の負担感については、もっと具体的な発信があると地域にできることがあると思う。	常野委員（社会教育関係者）
8	子育てを振り返ると、子どもは家庭だけでなく回りの環境で育まれたと思う。自己肯定感生きる力になる。提言にあるように大人が関わるのは難しいかもしれない。今、地域社会は希薄で町会やふるさと協議会の担い手不足は深刻。若い世代とコミュニケーションをとり、地域活動を盛り上げ子どもたちを育てたらと思う。	富田谷委員（社会教育関係者）
9	働くことを学ぶ、趣味で学ぶなど、楽しむ大人の姿を子どもたちに見せたい。	前川委員（社会教育関係者）
10	子どもを主役に大人が負担なく参加し、童心に戻れるような体験活動は双方にとって有意義。 例：ゆるスポーツ 障がいのある人でも運動が苦手な人でも楽しめる	下地委員（家庭教育支援関係者）
11	コロナ禍のなかでの体験活動や交流には課題が多いが、地域連携ルーム等の設置の具体的課題は何かを共有し、双方に過度な負担のない在り方が模索できるとよい。	寺本委員（学識経験者）
12	親が興味があることや好きなことは、まずは子どもにも体験させるべき。最初は親が義務で参加した町会の活動も、終わるころには楽しく来年も子どもと参加したい、もっと早くやればよかったと思った。 大人がさせてみたいことは、子どもがあまり気が乗らない事でも進めてみるとよい。体験してみたら楽しいかも知れないし、経験から自分たちで工夫したり役割を見つけたりするだろう。	古橋委員（市民公募）

	イ 今期テーマ「放課後子ども教室を活用した体験活動や遊びの場の提供の具体化」について	委員名
1	現在生じている家庭の教育力の格差を、地域の力で補い、どの子にも将来必要な学力と生活体験が得られる取組が実現できればと思う。	長島委員（学校教育関係者）
2	放課後子ども教室は、コミュニティ・スクールが導入される中で地域と学校の力を子どもたちに提供することの一役。具体化が進めばよい。	今井委員（学校教育関係者）
3	子どもたちの居場所づくり、また、シニア層含め大人たちの居場所づくりの点からも「放課後子ども教室」を活用した体験活動や遊びの場の提供は有効。 放課後子ども教室は低学年に限られている学区が多いかと思いますが、中学年、高学年も参加できる仕組み作りが重要。	荒井委員（社会教育関係者）
4	居場所はとても大切で、低学年は信用できる大人との関係性を育む機会になる。高学年からは生きづらさを抱え、居場所がなくなり不登校から引きこもりになるケースがあるので、放課後に人と関わることの影響は大きい。 地域の中高生や大人と、年に一度でも交流の機会を持つことで知ることになる。SOSは身近な大人の方が出しづらいこともある。	石垣委員（社会教育関係者）
5	校庭や近くの公園など、屋外でもいろいろな経験をされられるとよい。	岩崎委員（社会教育関係者）
6	参考例として：ラコルタ柏で定期実施しているイベントは自然なコミュニケーションができ、多世代交流や学びの場になっている。	高橋委員（社会教育関係者）
7	学校の要望・目的を出し、地域の人と一緒に検討することが必要。	常野委員（社会教育関係者）
8	放課後子ども教室に携わった際、子どもの授業では見せない姿や頑張る姿を見た。様々な居場所づくりは成長過程に必要なだと思う。	富田谷委員（社会教育関係者）
9	働くこと、趣味を楽しむことを絡めて大人と一緒に学べる活動ができるとよい	前川委員（社会教育関係者）
10	現在の補充学習はそのままに、広げるとしたら 例 防犯の学び（自分の身は自分で守る）、認知行動療法 勇者の旅プログラム、手品教室（コミュニケーション不得意な子の自己肯定感が上がる）	下地委員（家庭教育支援関係者）
11	放課後子ども教室に携わった経験から、今の学習支援にもニーズがあるが活動の選択肢が増えるのはよいと思う。 クラブ活動でも習い事でもなく、地域の人と交流して居場所にもなる活動を模索できるとよい。	寺本委員（学識経験者）
12	以前、土曜放課後子ども教室で茶道に親子で参加した。普段会わない人（お茶の先生、異年齢の子、他校の子）とのコミュニケーションのきっかけになった。参加しやすいスポーツや工作などの体験活動がよい。	古橋委員（市民公募）

	ウ 地域と学校の連携・協働について（放課後子ども教室に限らず）	委員名
1	家庭のニーズを知り，学校と地域の役割を明確にして連携していく必要がある。	長島委員（学校教育関係者）
2	コロナ禍の進みにくさはあるが，地域・家庭・学校が更に連携し，子どもたちの成長に寄与したい。	今井委員（学校教育関係者）
3	柏中学区では、書写指導、家庭学習ノートのチェック、図書ボランティア等々、地域と連携した活動が行われてきた。 現在、学校（柏中、柏一小、旭東小、東葛飾中・高校等）、町会、国土交通省、柏市、柏第一地区青少協が協力して、学区を通る国道6号線の地下通路4本で清掃活動をして、子どもたちの美術作品、書道作品を展示する「ROKKOKU PROJECT」を行っている。	荒井委員（社会教育関係者）
4	どんな地域・社会・未来を目指すのかについて，双方のビジョン共有が第一歩。子どもは敏感だ。昨年来対応すべきことが増えたからこそ，対話を通して互いの状況・課題・展望を分かち合うことが大切。	石垣委員（社会教育関係者）
5	地域との連携の重要性を管理職以外の教員も認識できるよう，自ら地域に飛び込んで，いろいろな経験をしてほしい。	岩崎委員（社会教育関係者）
6	こども食堂，学習支援など，子どもたちのためにという地域の思いや行動は多いので，学校との連携を推進できるとよい。	高橋委員（社会教育関係者）
7	地域外の学校の活動は教育委員会の活動とすれば，新たなアイテムになるのでは。 事例：高柳小で東京理科大と地域ボランティアの協力で年1回理科実験	常野委員（社会教育関係者）
8	コミュニティ・スクールは何をどうしたら良いのか分からない地域もある。連携を密にし，学校側は明確なビジョンを示すことが大切。	富田谷委員（社会教育関係者）
9	若い世代を取り込みたい。 お兄さんお姉さんと一緒に遊んだり学んだりすることを経験させたい。	前川委員（社会教育関係者）
10	地域の人とつながる幅広いキャリア教育 例 学校と地域の連携による防災訓練や災害時を想定した学び 多様性の学び，理解（LGBTs，障がい，外国籍の方）	下地委員（家庭教育支援関係者）
11	地域と学校の本音のすり合わせができるとよい。地域資源を発掘・共有できる場があるとよい。	寺本委員（学識経験者）
12	地域の職場体験等の授業の際，地域の町会，商店会の方と保護者につながりがあると学校の負担が減るのでは。情報発信方法も保護者の年代に合わせてSNSの活用を。	古橋委員（市民公募）

その他ご意見

1	今後の会議では，ZOOMの機能を活用する準備をしておくグループワークもできると思う。
2	感染リスクを考慮した開催方法に感謝する。